

新たな県産種雄牛「^{ゆきはなひさ}幸花久」および「^{かみやすひら}神安平」の能力と特徴

山形県農業総合研究センター畜産試験場

研究のねらい

「総称 山形牛」のブランド力の向上と県内肉用牛経営の安定化を図るため、遺伝的に優れた能力を持つ雄牛と雌牛を掛け合わせて生まれた雄子牛の中から、高い評価の枝肉生産が期待できる新たな県産種雄牛「幸花久」および「神安平」を選抜した。

研究の成果

- ① 「幸花久」(図1, 2)は特に脂肪交雑に関して極めて高い能力を有している(表1)。脂肪交雑(BMS)の平均は9.3で、歴代の県産種雄牛の中で最高値である。
- ② 「神安平」(図3, 4)は特にロース芯面積と推定歩留に関して極めて高い能力を有している。ロース芯面積の平均は71.6 cm²で、歴代の県産種雄牛の中で最高値である(表1)。また、推定歩留の平均は75.6%で、歴代の県産種雄牛の中で最高値である。

※脂肪交雑：筋肉(赤身)に入り込んだ脂肪の程度、霜降り度合。BMSナンバー(1~12)で表す。

推定歩留：枝肉から取れる肉の割合を計算式により出したもの。

ロース芯面積：ロース肉の中心となる胸最長筋の第6, 7肋間切断面での面積。

表1 産子の枝肉成績

	頭数 (頭)	出荷月齢 (月)	枝肉重量 (kg)	ロース芯面積 (cm ²)	バラ厚さ (cm)	皮下脂肪厚 (cm)	推定歩留 (%)	脂肪交雑 BMS	肉質等級 4・5割合
幸花久	14 (去勢8, 雌6)	30.8±0.7	479.7±52.9	68.7±5.4	8.1±0.5	2.7±0.8	75.4±1.0	9.3±2.5	92.9%
神安平	20 (去勢14, 雌6)	30.7±0.8	489.9±48.0	71.6±11.7	7.9±0.6	2.6±0.5	75.6±1.6	7.5±3.0	70.0%



図1 幸花久

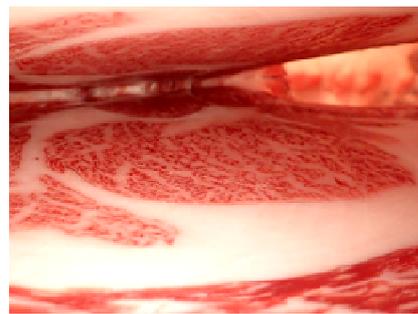


図2 「幸花久」産子のロース断面



図3 神安平

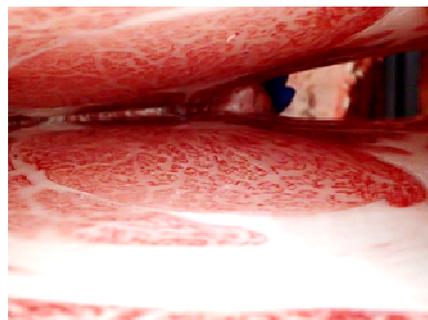


図4 「神安平」産子のロース断面